

IBM インテグレーション

フィールド・ガイド

IBM

最新版の IBM インテグレーション・フィールド・
ガイドはこちらからダウンロードしてください



<https://ibm.biz/int-fguide>

インテグレーションに イノベーションを組み込む

多くの組織がコストを抑えながらシステム連携(統合/インテグレーション)のスピードを上げる方法を求めています。しかし、適切なアプローチや実際の運用データによるガイドもなく早急に事を進めてしまえば、たちまち間違った場所にたどり着いてしまいます。より迅速かつ質の高い統合を目指して統合戦略を見直すことで、統合をボトルネックから不可欠なイノベーションの成功要因へと変えましょう。

統合へのアプローチを見直す

アジャイル・インテグレーションの採用。アジャイル・インテグレーションの範囲は人材、プロセス、アーキテクチャー、テクノロジーに及び、需要に対応できない高度に一元化された統合アーキテクチャーからユーザーを解放できます。

統合の自動化。AIを活用して統合を自動化することで、ベスト・プラクティスと組み込みの再利用機能を活かして、スキルの障害をなくし、効率化を図ることができます。

クローズド・ループの統合ライフサイクルの実装。実際の会社固有の運用データを用いることで、問題と推奨事項を特定し、継続的に統合を改善させることができます。

複数の統合スタイルの使用。異なる統合スタイルを組み合わせることで、統合ライフサイクルが合理化され、チームが画一的なアプローチよりも迅速かつ質の高い統合を実現できます。

内容

このフィールド・ガイドでは、インテグレーション・モダナイゼーションへの IBM のアプローチの概要を説明します。

学ぶ

概念の要旨を説明します。

始める

統合の自動化を始めるためのヒントを紹介します。

発展性のある開発

デジタル変革で求められる統合のスピードと規模に対応するには、従来型の一元的に管理されるアーキテクチャーでは不十分です。この問題を解決するには、アジャイル・インテグレーション戦略を採用し、ハイブリッド型プラットフォームと組み合わせる方法が有効です。

統合のあらゆるパターンと機能に対応できる単一のプラットフォームがあれば、ハイブリッド・マルチクラウド環境を使って統合を進め、スピードを加速しながらアプリケーション開発を効率的に進め、同時にコストを削減し、従来と最新の統合要件を適切なバランスで満たすことができます。

「統合」が重要な役割になう

統合戦略の見直し。分散型でコンテナ・ベースのマイクロサービスに沿ったアプローチを通して、現在のデジタル環境における急速な変化に対応します。

包括的な統合プラットフォームの採用。オープン・テクノロジーとハイブリッド・マルチクラウド・アーキテクチャーを活用して、それぞれの統合に伴うコストを削減します。

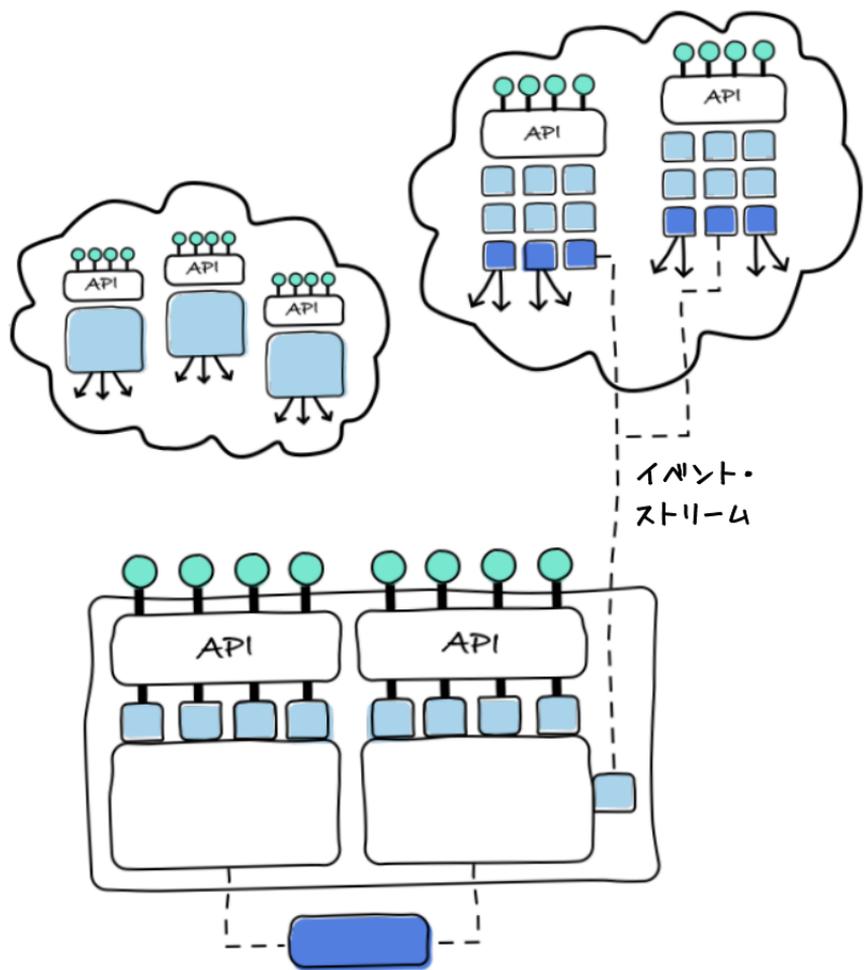
投資の保護。統合戦略を狙い通りに実践するためには、急速な変化に後れをとらないよう、人材、プロセス、テクノロジー、アーキテクチャーを包括的に見直すことが必要になります。DevOps や CI/CD といった最新の開発手法を採用し、俊敏性を向上させます。



詳細

IBM Garage™ について、こちらをご参照ください。

<https://www.ibm.com/jp-ja/garage>



AI を活用した統合環境の採用

現在、私たちを取り巻く世界のすべてが、急速に変化しつつあります。デジタル変革とアプリケーション・モダナイゼーションを成功させるには、俊敏性、拡張性、そしてレジリエンシーが欠かせません。こうした要件を満たすには、コンテナ・ベースで分散型の、マイクロサービスに沿ったアプローチに移行することが必要です。

変化に対して積極的に対応

共通の統合プラットフォーム上に集約。現在のエンタープライズ統合機能をマネージド・コンテナ・プラットフォームに移行することで、可用性、レジリエンシー、保守容易性を向上します。統合サービスのプロビジョニングも効率化されます。

アジャイル・インテグレーション・アーキテクチャーの採用。アプリケーションは、エンタープライズ統合環境により、社内外のシステムに接続する必要があります。このニーズを踏まえて統合のアーキテクチャーと戦略を見直し、俊敏性、簡索性、効率性を向上しましょう。

ユースケースに注目。ビジネス・ユースケースを軸に統合を捉えることで、イノベーションを加速することができます。デジタル・チャネルとエンタープライズ・アプリケーションの両方について、サービス利用モデルを再検討します。

統合ロジックの強化。コグニティブ AI 機能により、イベント駆動型のルールと意思決定ポリシーを使用して、統合フローのロジックと構成を動的に強化できます。



詳細

IBM Cloud® Architecture Center についてご確認ください。

<https://www.ibm.com/cloud/garage/architectures> (英語)

場所を問わずデータとサービスに接続

API、マイクロサービス、イベントとして公開

新しい統合を構築

既存の統合を活用

アプリケーション データストア メッセージング イベント・ストリーム データ・ストリーム

マルチクラウド・サービス 管理 セキュリティー AI

あらゆるクラウドに展開

全体戦略の策定

インテグレーション・モダナイゼーションを始めるにあたり、考慮すべき重点項目がいくつかあります。

計画して始める

全体像の把握。それぞれの重点領域に必要なモダナイゼーションの規模を、現在の状況と、現在のコア・ビジネスが目指すべき状況に応じて判定します。

現在の統合環境の評価。現在の統合機能を特定し、成熟度モデルを使って将来の成長を予測します。

ネイティブの特性をエンタープライズ統合に組み込む。すべてのエンタープライズ統合パターンを実行する、ハイブリッド・マルチクラウド統合プラットフォームの構築を開始します。

統合ロードマップの作成。従来の統合からモダナイズされた統合へと順調に移行しているかどうか、各重点領域に基準を策定し、判定します。また、移行の工程全体をタイムラインにまとめます。



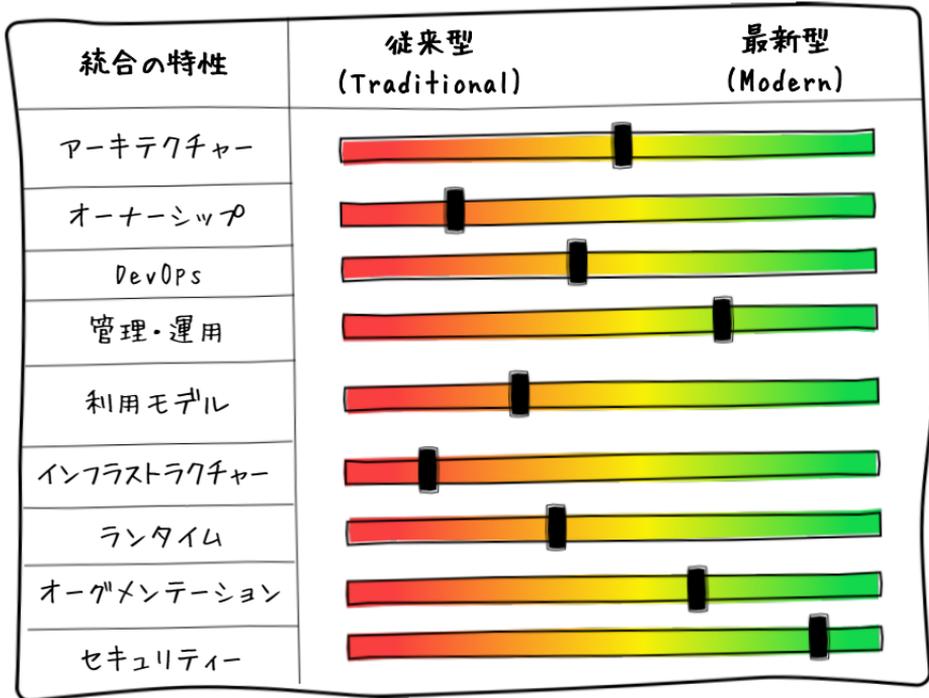
詳細

アプリケーション・モダナイゼーション・アーキテクチャーについて、こちらをご参照ください。

<https://www.ibm.com/cloud/garage/architectures/application-modernization>

(英語)

必要に応じた適切な
アプローチの組み合わせ



インテグレーション・モダナイゼーションにはさまざまな特性
があります。それぞれの特性ごとに、現在の自社にとって最適
な基準を決定してください。

アジャイル・ インテグレーションへの進化

アジャイル・インテグレーションとは、エンタープライズ・サービス・バス (ESB) に代表される一元管理型のモノリシック統合コンポーネントを、もっと小型で粒度の細かい複数の独立コンポーネントに分割するアプローチです。コンポーネントを小型化することで、アーキテクチャーに対してシームレスに組み込めるようになり、削除または更新してもその他のコンポーネントに影響を及ぼしません。

人材、プロセス、テクノロジーの自由度を向上

オーナーシップの再検討。 デジタル・チャネルの数が増え、バックエンド・サービスの利用方法が多様化していくにつれ、これまで一元的に集約されていた統合レイヤーのオーナーシップを分散され、アプリケーション・レイヤーに移行されます。

細かい粒度のデータを API 経由で利用。 外部のサード・パーティー開発者、ビジネス・パートナー、社内の各部門に公開するデータに調整を加えることができます。開発者は、標準の API をそのまま使用して独自のビジネス・オブジェクトを構築できます。

軽量の統合ランタイムによるスケーリング。 仮想マシン、コンテナ、コンテナ・オーケストレーションなど、新たに登場したさまざまなテクノロジーを活用することで、一元管理型の ESB パターンを、より小型の管理しやすい独立コンポーネントに分割できます。



詳細

Redbooks 『Accelerating Modernization with Agile Integration (アジャイル統合でモダナイゼーションを加速)』をご確認ください。

<http://www.redbooks.ibm.com/abstracts/sg248452.html> (英語)



人材

アジャイルなチーム

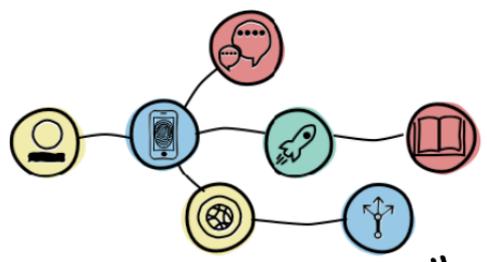
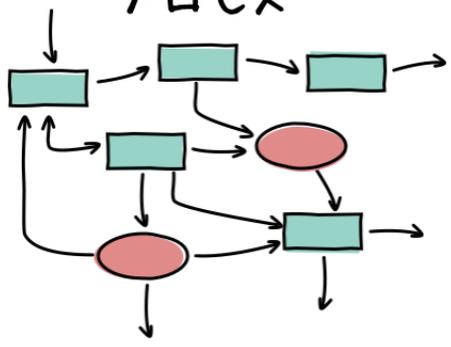
スクワッド (小チーム)

ギルド (小グループ)

自動化

CI/CD

プロセス



テクノロジー

分散型

細かい粒度

コンテナ・ベース

取り組みの始め方

あらゆるモダナイゼーションは、それぞれ異なるエリアから始まります。しかしすべてに共通しているのは、統合プラットフォームが必要だということです。拡張性、パフォーマンス、俊敏性というクラウドの特性は、統合プラットフォームの上で活かすことができます。

今、ここから始める

デジタル変革の加速。さまざまなデジタル・チャンネルは企業のデータやサービスへのアクセス方法に対して、新しく革新的なアクセス方法を求めています。これを実現することで、統合プラットフォームの俊敏性を高めることができます。

中心となるシステムのモダナイゼーションに対応。既存のエンタープライズ統合における接続先を再検証してください。この再検証を実施する背景には、記録のためのシステム (SoR) がリフト&シフトによるクラウド移行または SaaS への移行を完了した、エンタープライズ・アプリケーションがモノリシックからネイティブにリファクタリングされた、パートナーのエコシステムが自社インターフェースをモダナイズしたなど、さまざまな理由が考えられます。

自律性のあるチームの実現。ビジネス主導の技術チームは、統合の新たな課題に直面しても、独力で解決しようとしがちです。効果的な統合を実践するためには、高い生産性を提供する最先端の統合ツールを認知させ、実績があり成熟しているパターンを活用することを遵守させてください。

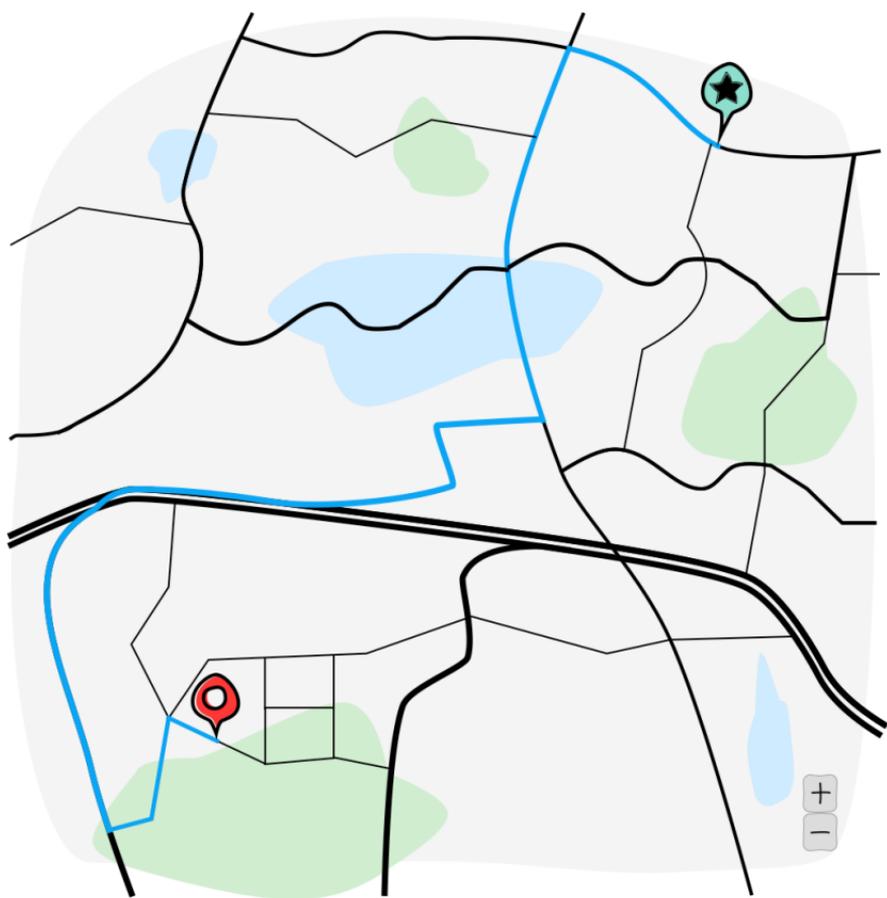
ミドルウェアの進化を活用。最新の統合ミドルウェア製品には、仮想化、コンテナ化、サービス形式 (as-a-Service) による展開、マルチクラウドのサポートが含まれています。



詳細

インテグレーション・モダナイゼーションについてご確認ください。

<https://www.ibm.com/cloud/garage/architectures/modern-integration> (英語)



今どこにいても、目指す所に必ず到達できます。

アジャイル・インテグレーション・アーキテクチャー

企業におけるシステム連携のモダナイゼーションでは、新たな統合のエンドポイントやパターンが続々と登場します。アジャイル・インテグレーション・アーキテクチャーを整備すれば、絶え間なく繰り返される環境の変化に対応し、環境を切り分けて統合を調整し導入することができます。

モダナイゼーションを目的にしたモダナイゼーションを行わない

粒度の細かい統合フローを導入。統合フローの変更、再構築、展開を独立させることで、変更の実装、規模の拡大、レジリエンスの確保、最短期間での本番運用開始を、安全に行うことができます。

統合のオーナーシップを分散。統合の作成と保守に関するオーナーシップを分散させることで、一元管理型の統合チームやインフラストラクチャーの必要性をなくし、これらに関連するボトルネックの発生を回避します。

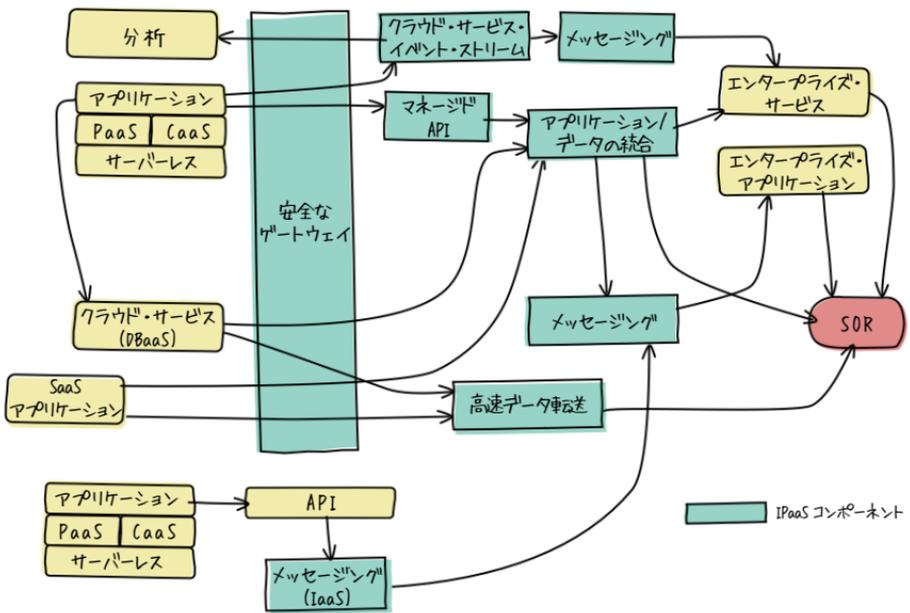
クラウド・インフラストラクチャーの採用。クラウドネイティブの展開技術に最適なコンテナ・ベースの環境で、軽量な統合ランタイムを実行できます。



統合戦略の成熟度を評価してください。

<https://www.ibm.com/cloud/garage/assessments/modern-integration> (英語)

IBM の専門知識に
基づいたアドバイス。

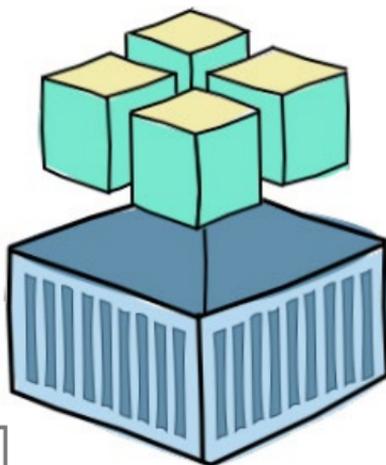


ハイブリッド・マルチクラウド・インフラストラクチャー全体で複数の
統合パターンを組み合わせることで、ユーザーのニーズに対応します。

IBM Cloud Paks とは?

IBM Cloud Paks® は、企業のデジタル変革を加速するためのインテリジェント・ワークフローを、完全に実装する上で役立つ、ハイブリッドクラウド向けの AI を搭載したソフトウェアです。IBM Watson® の機能を活用してお客様のビジネスに AI を取り入れることで、将来の結果を予測して形にしたり、複雑なプロセスを自動化したり、従業員の時間を最適化したり、より有意義で安全な顧客体験を実現します。

Red Hat® OpenShift® をベースに構築されているため、アプリケーションを一度開発するだけでクラウド上のどこにでも展開でき、IT 環境全体のセキュリティー機能を統合して、運用を自動化し、管理の可視化を図ることができます。IBM Cloud Paks は、開発を加速して、シームレスな統合を実現し、コラボレーションと効率の向上を支援する、エンタープライズ・コンポーネントの共通の基盤を備えています。



詳細

IBM Cloud Paks について、こちらをご参照ください。

<https://www.ibm.com/jp-ja/cloud/paks>

IBM Cloud Pak for Data。完全に統合され、コンテナ化されたクラウド・ネイティブ・データと AI プラットフォームにより、データ管理、ガバナンス、分析、データサイエンスを簡素化します。Red Hat OpenShift をベースに構築されているため、あらゆるクラウドまたはオンプレミスで実行可能なオープン・プラットフォームにより AI の導入を加速できます。

IBM Cloud Pak for Business Automation。業務ユーザー向けのローコード・ツールと、業務マネージャー向けのリアルタイムのパフォーマンス可視化機能を搭載し、任意のクラウドに展開できます。アプリケーションの変更やデータの移行を必要とせず、自動化ランタイムを移行します。ベンダー・ロックインを回避して自動化をスケールアップします。

IBM Cloud Pak for Watson AIOps。IT 運用におけるツールチェーン全体にわたり高度で説明可能な AI を展開し、ワークロードのインシデントの評価、診断、解決を確実に行うことができます。IT 運用業務の中核に AI を据えることで、即応性を向上させ、リスクを軽減できます。

IBM Cloud Pak for Integration。スピードと質の両方を実現し、統合とアプリケーションを向上させることができます。IBM Cloud Pak for Integration を使用することで、セキュリティ、ガバナンス、可用性を維持しながら、統合を 300% 加速し、コストを 33% 以上削減、全体の運用効率を向上させることができます。

IBM Cloud Pak for Network Automation。AI を搭載した通信クラウド・プラットフォームでネットワークを変革することで、ネットワーク運用を自動化し、ゼロタッチ運用に発展させ、運用費用 (OpEx) を削減してサービスを迅速に提供できるようにします。

IBM Cloud Pak for Security。隠れた脅威を見つけ出し、より多くの情報に基づいたリスクベースの意思決定を可能にし、インシデントへの対応を迅速化できます。オープンなセキュリティ・プラットフォームを使用して、より深い洞察を生成するためにお客様の既存のデータ・ソースにアクセスし、自動化でさらに迅速に行動できるようにします。

IBM Cloud Pak for Integration

各種の統合スタイルと機能を取り揃え、統合アーキテクチャーの管理を簡素化して統合スピードを高め、コストを削減します。セキュリティー、ガバナンス、可用性を維持しながら、統合ライフサイクル全体に AI を活用した自動化を拡張します。

高速、簡単、安全な、最新の統合パターン

API 管理。 可用性を継続的に維持しつつ、さまざまなクラウドに対応する API の作成、保護、管理、共有、収益化を実現します。

アプリケーションとデータの統合。 あらゆるクラウド・システムで、ビジネス・データとアプリケーションを迅速かつ簡単に統合します。

エンタープライズ・メッセージング。 信頼性、柔軟性、安全性に優れたメッセージング・ソリューションで、データ交換を簡素化、高速化、活性化します。

イベント・ストリーミング。 Apache Kafka を活用して、メッセージ配信の簡素性と信頼性を高めるとともに、イベントへのリアルタイム対応を実現します。

高速データ転送。 大容量のファイルやデータ・セットを、最大速度で確実に送信、共有、ストリーミング、同期します。

プラットフォームレベルのセキュリティー、自動化、モニタリング。 ゲートウェイの設定と管理、リソース単位でのアクセス制御、統合フローの展開、あらゆるトラフィックの監視を迅速に行うことができます。

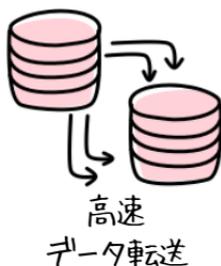
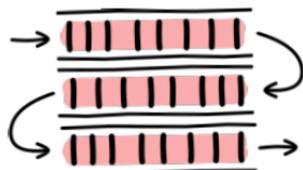
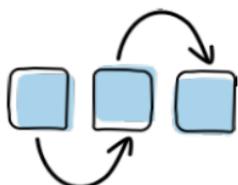
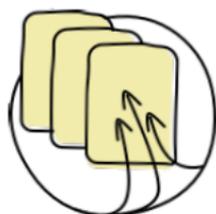
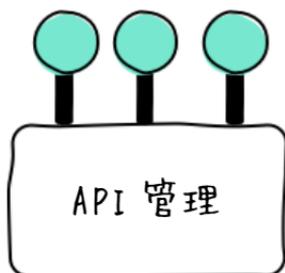


詳細

IBM Cloud Pak for Integration について、こちらをご参照ください。

<https://www.ibm.com/jp-ja/cloud/cloud-pak-for-integration>





IBM Cloud Pak for Integration - 実績ある統合パターンが、管理の簡素化とコストの削減を可能にします。

API 管理

クラウド・アプリケーションとオンプレミス・アプリケーションのギャップを埋めるには、バックエンドの実装を API として抽象化することが有効です。これを実践する最適なやり方に、サービスを API として公開して外部からの利用を可能にし、利用側のアプリケーションに統合ロジックを構成させる方法があります。

イノベーションの原動力は、ユーザー主体の視点

拡張。 標準の API インターフェースを提供し、グローバル API ディスカバリーを含めることで、粒度の細かいサービスとしてビジネス機能にアクセスできるようにします。革新的な変革のユースケースが主導する形で、データの再利用とマッシュアップを促進します。

統合。 マネージド API を通じてコア・サービスを公開することで、ビジネス目標の達成を大きく前進させます。プロジェクトの相互統合を可能にすることで、エンタープライズを横断することで生まれるシナジー効果を発見できます。API 呼び出しとカスタマー・リレーションシップ・マネジメント (CRM)、販売、およびマーケティングのデータで事前に学習済みの AI モデルを活用して、ビジネス価値の分析をハイライトします。

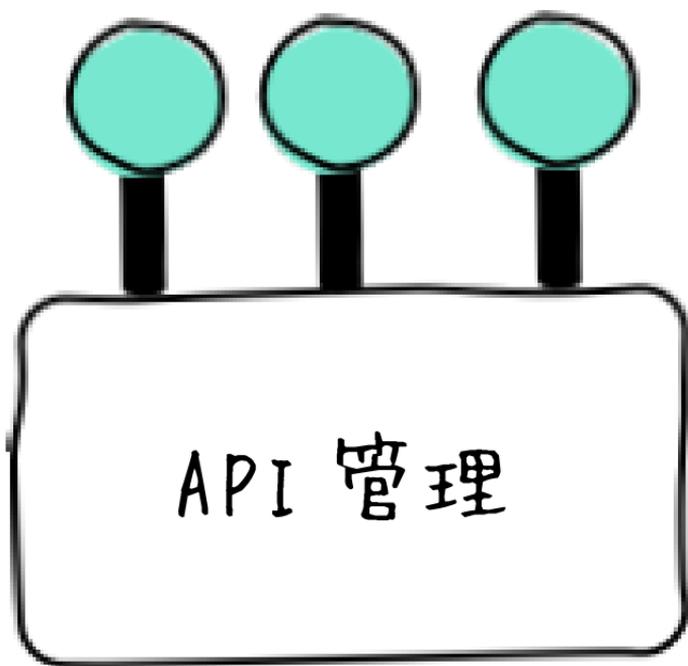
スケーリング。 拡大するエコシステムの需要や、使用状況に関するその他の指標に基づく動的なスケーリングに対応しましょう。AIOps 手法を使用して、本番環境のパフォーマンスの問題を検出、特定し、解決します。その結果を統合アセンブリ・プロセスに送り、新しいベスト・プラクティスに基づいて統合アセットの作成を学習させます。



詳細

API 管理アーキテクチャーについてご確認ください。

<https://www.ibm.com/cloud/garage/architectures/apiArchitecture> (英語)



IBM Cloud Pak for Integration が、統合アーキテクチャー管理の簡素化とコストの削減を可能にします。

アプリケーションとデータの統合

オープン・スタンダードを使用して、あらゆるクラウドのあらゆるビジネス・データとアプリケーションを、迅速かつ容易に統合できます。構築済みのスマート・コネクタと共通の共有可能なアセット・リポジトリにより、ソースやフォーマット、標準の不適合に関する懸念を軽減させ、統合のスピードを向上させます。自然言語処理 (NLP) と AI を活用して、ローコード/ノーコードの統合ツールで統合フロー構築におけるカスタム・マッピングの推奨パターンが提示されます。

統合環境の簡素化と集約を実現

アプリケーションの統合。アプリケーションとデータ・ソースをオンプレミスまたは複数のクラウドに接続し、ビジネス情報の交換を粗い粒度のサービスとして調整することにより、コア・データとトランザクションの整合性を維持します。ロボティック・プロセス・オートメーション (RPA) コネクタを使用してレガシー・アプリケーションから重要な詳細をかき集め、新しいメタデータを提供して、効果的な接続を可能にします。

データの統合。複数のエンドポイントのデータをほぼリアルタイムで同期することで、レガシー・バックエンドから収集され、SaaS アプリケーション、DBaaS リポジトリ、分析サービスに送信されるデータを、包括的な 1 つのビューで可視化します。

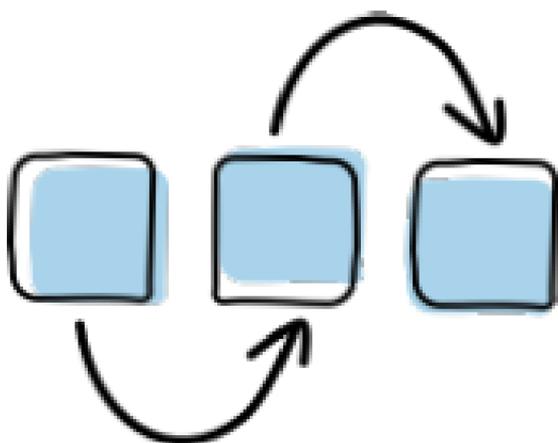
アジャイル・インテグレーションに対応。企業全体にわたるさまざまな機能を集約し、中核となる企業のサービスとビジネス・プロセスの利用を実行します。統合ロジックにコグニティブ・オーガメンテーションを組み込み、アジャイルな組織モデルとガバナンス手順を確立します。



詳細

IBM Cloud Pak for Integration について、こちらをご参照ください。

<https://www.ibm.com/jp-ja/cloud/cloud-pak-for-integration>



アプリ/データの 統合

あらゆるクラウドのあらゆるビジネス・データとアプリケーションを、
今まで以上に迅速かつ容易に統合します。

エンタープライズ・メッセージング

柔軟性と安全性に優れたメッセージング・ソリューションで、データ交換を簡素化、高速化、活性化します。従来のメッセージング機能を最新のアプリケーションで拡張することで、AI、IoT デバイスその他のデジタル・チャンネルと、新しいテクノロジーを使って通信できるようになります。

必要な情報を、必要なタイミングで受信

メッセージングの安全性と信頼性を確保。高度なセキュリティーが組み込まれた機能により、メッセージの整合性をネットワーク全体で維持し、データを保護し、法令遵守を徹底できます。損失や重複がなく、複雑なリカバリーも不要な、信頼性の高いメッセージ配信を実現します。

エンタープライズ全体を集約。業界標準の JMS メッセージング・プロトコル、スケーラブルなパブリッシュ-サブスクライブ、豊富に選択できる API を使用して、異機種混合のアプリケーション・プラットフォームを今まで以上に簡単に統合できます。

ハイ・パフォーマンスでスケーラブルなメッセージ転送。アプリケーションは、完全に自動化されたフェイルオーバー、動的に分散されるメッセージング・ワークロード、高スループット、再利用すべきキューの提案、低レイテンシーなどの特長を備えた、高可用性ソリューションを利用できます。

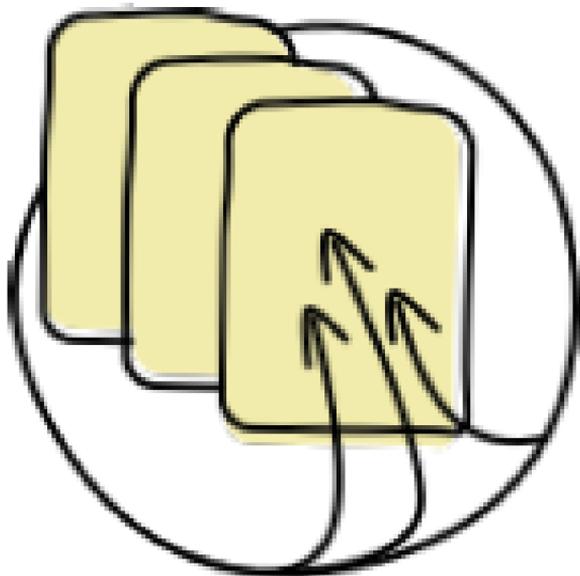
管理と制御を簡素化。ダッシュボードを使ってメッセージングとファイルの追跡状況を可視化し、洞察を入手できます。また、データの移動やトランザクションの完了を監査できます。



詳細

ハイブリッド・メッセージング・アーキテクチャーについてご確認ください。

<https://www.ibm.com/cloud/garage/architectures/hybrid-messaging> (英語)



メッセージング

エンタープライズ機能が均一になることはありません。
であればこれらを統合しましょう。

イベント・ストリーミング

イベント・ストリームを活用し、パーソナライズされた魅力的なユーザー・エクスペリエンスを備えた、イベントに対し即応するソリューションを構築しましょう。その設計上、イベントは、数多くのソースによる連続ストリーム内で低レイテンシーかつ高速で発生します。

リアルタイムの応答

システムの複雑性を低減。 イベント・プロデューサーは、疎結合という特性を利用して、イベントの利用予定者に関する情報なしにイベントを発行できます。同様に、イベント利用者がイベント発行者を認識する必要はありません。

インターフェースの簡素化。 1 つのイベント・プロデューサーが、1 回の呼び出しで複数のエンドポイントに到達できます。

イベントに瞬時に応答。 実現されるシナリオには、IoT デバイス、ストリーミング分析、リアルタイムのバックエンド・トランザクション、地理位置情報の追跡、監査などがあります。

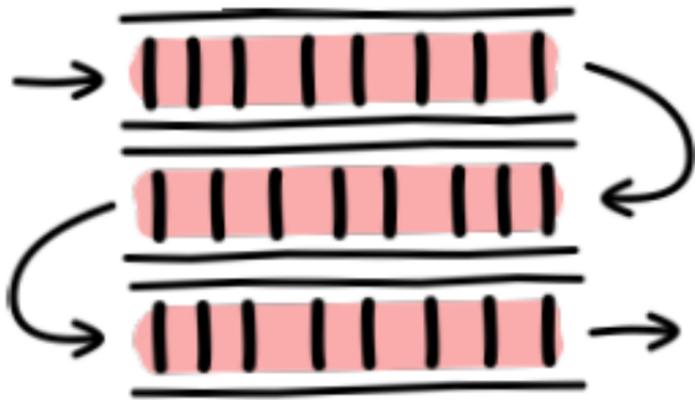
機械学習の促進。 一括処理からリアルタイムのイベント・ストリーミングに移行することで、予測分析を改善します。



イベント駆動型アーキテクチャーについてご確認ください。

<https://www.ibm.com/cloud/garage/architectures/eventDrivenArchitecture>

(英語)



イベント・ ストリーミング

アプリケーションが、過去の出来事に基づいて
未来を推論し反応できるようになります。

高速ファイル転送

現在の企業は、信頼性と安全性に優れた高速データ転送と、ハイブリッドかつマルチクラウドな同期されたシステムを必要としています。統合プラットフォームがあれば、ストレージの種類、オンプレミスやクラウドなどの場所、多様なクラウド・ベンダーの種類に縛られず、地理の境界にもとらわれない安全なデータ転送を、従来のツールよりも高速に実現できます。

必要な場所、必要なタイミングでデータを入手

アプリケーション・データを統合。 ビジネス情報の交換を調整し、必要なタイミングと必要な場所でデータを入手できるようにします。

データを分析用に変換。 データのアクセス、クレンジング、準備を実行し、データウェアハウスまたはデータレイク内で、一貫性のあるビューでビジネスを把握できるようにします。

エンタープライズ・データを強化。 エンタープライズ・バックエンド・システムのデータで DBaaS コンテンツを強化し、あらゆる角度からユーザーを把握できるようにします。パートナーと社内のデータ・ソースを同期し、それぞれの更新を相互に反映します。

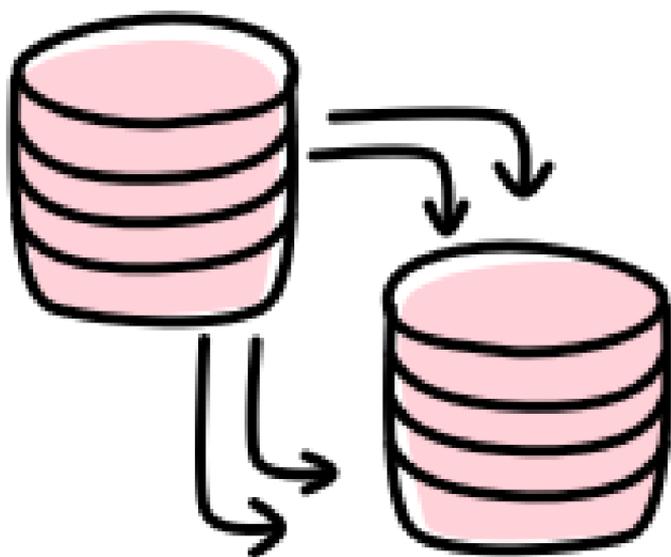
データを転送。 オンプレミスとクラウド間、またはクラウド間における大量のデータ転送を高速化し、高い予見性を実現、さらに高いセキュリティ・レベルも向上します。データが大容量で交換が長距離にわたる場合は、クラウド・プラットフォームへの移行が加速します。



詳細

IBM Cloud Pak for Integration について、こちらをご参照ください。

<https://www.ibm.com/jp-ja/cloud/cloud-pak-for-integration>



高速 データ転送

安全で高速なデータ転送を実現します。

プラットフォームレベルのセキュリティ、自動化、モニタリング

DevSecOps ライフサイクル全体にセキュリティ、ガバナンス、パフォーマンスのポリシーと自動化機能を備えた統合アセットを拡張します。

統合アセットの保護、モニタリング、自動化

適用すべきポリシーを提案。 ソリューション・アーキテクトやセキュリティ・エンジニアが、統合パターンに適用するガバナンス、パフォーマンス、セキュリティのポリシーを特定できるようにします。

将来的な統合アセットの作成に備えてポリシーを更新。 ソリューション・アーキテクトやセキュリティ・エンジニアが、統合パターンに適用されている既存のガバナンス、パフォーマンス、セキュリティのポリシーを、リアルタイムの動作に基づいて更新できるようにします。

統合開発時にポリシーを強制。 ベストプラクティスが含まれる統合アセットに基づいて、事前に定義されたポリシーで統合を構築することができます。

実行前にポリシー・コンプライアンスを検証。 AIOps の手法で、本番環境に展開する前にポリシー遵守を検証します。

本番環境の問題を検出し、関連付けられた自動化に基づいて行動。 AIOps 手法を使用して、本番環境のパフォーマンスの問題を検出します。その情報を統合アセンブリー・プロセスに送り、ベスト・プラクティスに基づいて将来的な統合アセットの作成を学習させます。



IBM Cloud Pak for Integration について、こちらをご参照ください。
<https://www.ibm.com/jp-ja/cloud/cloud-pak-for-integration>



プラットフォームレベル
のセキュリティ、自動
化、モニタリング

複合的な統合のシナリオ： ユーザー中心の 統合ストーリー

すべての統合に異なるパターンが必要な例を紹介します。ある架空の保険会社が、契約者の健康増進活動にポイントを付与する新しいプログラムを導入しました。健康増進のためのさまざまな活動はウェアラブル・デバイス経由で測定され、さまざまな指標が収集、集計され、ポイントが計算されます。リスクは、医療パートナーによる分析によって把握され、契約者がリスクにあると判断された場合は、メンバーにアラートが送信され、プログラムの中止が要請されます。

歩けば歩くほどポイントが加算



詳細

IBM Cloud Pak for Integration について、こちらをご参照ください。

<https://www.ibm.com/jp-ja/cloud/cloud-pak-for-integration>

イベント・ストリーミング。 契約者の歩数は、スマート・デバイスによって記録し、追跡されます。これらのイベントはモバイル・アプリケーションに送信され、イベント・ストリームに公開されて、バックエンド処理が実行されます。バックエンド・アプリケーションは、イベント・データを集計し、保険料の割引率を計算します。

API 管理。 契約者の担当医師が、契約者のデバイスから検査結果を受信します。病院のポータルにログインして検査データを報告し、すべての画像記録と検査指標を、ポータルのリポジトリーにアップロードします。その病院は、ビジネス API を呼び出してデータを報告することができる Web アプリケーションのネットワーク・パートナーです。この API がバックエンドの SoR (Systems of Record) に報告を送信し、追加の処理とフォローアップが行われます。

エンタープライズ・メッセージング。 エンタープライズ・アプリケーションは、この契約者が心臓不整脈の状態にあること、現在参加しているフィットネス・アクティビティーには深刻なリスクがあることを、ビジネス・ルールに基づいて検出します。アプリケーションがアラート・イベントをハイブリッド・メッセージ・キューに追加すると、プッシュ通知がトリガーされ、SMS テキスト・モバイル・アラートが契約者に送信されます。

アプリケーションとデータの統合。 バックエンドの SoR は、統合フローを呼び出し、契約者の新たな健康状態に関わるすべてのデータ・ソースを対象に更新を実行します。クラウド・データベースの契約者プロフィールが統合フローによって更新され、モバイル・アプリケーションも最新情報で更新されます。これにより、高速ファイル転送コンポーネントがトリガーされ、病院ポータルのリポジトリーが提供する新しい患者情報と患者画像検査の結果が、バックエンドの SoR と同期されます。

高速データ転送。 高速ファイル転送コンポーネントは、病院ポータルのリポジトリーにある患者記録にアクセスし、まったく別の地域にあるエンタープライズ SAN ストレージに記録を移動します。ETL コンテンツ・インポート・コンポーネントによって、新しいデータがバックエンドの SoR に取り込まれます。

IBM Garage: モダナイゼーションの取り組みを加速

モダナイゼーションにはさまざまな方法がありますが、すべての資産を書き直すのは現実的ではありません。ビッグ・バン級のモダナイゼーションには大きなリスクが伴うため、大規模な活動については、影響を測定できる小さなプロジェクトに分割することが推奨されます。目標は、価値を高め、デリバリーの頻度を増し、リスクを減らすことです。IBM Garage のエキスパートにお任せください。

必要なリファクタリングは行うが、すべてにリファクタリングが必要なわけではない

協力による創造。業務のモダナイゼーションの機会を特定します。チームで MVP を特定して育成し、フィードバックを得て、ソリューションを協力して生み出します。

協力による実施。現行資産をモダナイズする適切な手法を選んで、リスクを管理します。自動化とテクノロジーによって行程を高速化します。

協力による運用。アプリケーション資産全体を本稼働用に強化し、運用を標準化して、DevOps を効率化します。



IBM Garage について、こちらをご参照ください。

<https://www.ibm.com/jp-ja/garage>

IBM のアクセラレーターと
ツールを使用してアプリケー
ションを迅速かつ安全に
モダナイズします。

IBM の Garage エキスパートが対応

クラウド・モダナイゼーションのロードマップ



信頼できるパートナーである IBM Garage は、テクノロジーと
あるべき姿を示すアプローチで即座にビジネス価値をもたらします。

注:

IBM Cloud Pak for Integration:
次のステップへ

<https://www.ibm.com/jp-ja/cloud/cloud-pak-for-integration/get-started>

IBM Cloud Pak for Integration
について

<https://www.ibm.com/jp-ja/cloud/cloud-pak-for-integration>

統合の成熟度を評価

<https://www.ibm.com/cloud/garage/assessments/modern-integration>
(英語)

最新の統合アーキテクチャー

<https://www.ibm.com/cloud/garage/architectures/modern-integration>
(英語)

Red Hat OpenShift の
詳細情報

<https://www.openshift.com/> (英語)

アジイル統合について

<https://www.ibm.com/cloud/integration/agile-integration>
(英語)

IBM Garage について、こちらを
ご参照ください

<https://www.ibm.com/jp-ja/garage>



Garage メソッドを理解して、
バッジを手に入れましょう。

ibm.biz/explore-method-course (英語)

特記事項

© Copyright International Business Machines Corporation 2019, 2021.

本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権（特許出願中のものを含む）を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

〒103-8510 東京都中央区日本橋箱崎町 19 番 21 号

日本アイ・ビー・エム株式会社

法務・知的財産

知的財産権ライセンス渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

IBM の将来の方向性または指針に関する記述は、予告なく変更または撤回される場合があります。これらは目標および目的を提示するものすぎません。

商標

IBM、IBM ロゴおよび ibm.com は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。他の製品名およびサービス名等は、それぞれ IBM または各社の商標である場合があります。現時点での IBM の商標リストについては、www.ibm.com/legal/copytrade.shtml をご覧ください。

インテグレーション・モダナイゼーション

